

[専門教育科目/看護の展開/在宅看護学]

科目名	ナンバリング	区分(必修・選択)	単位数	履修年次	開講学期等
在宅看護学実習Ⅰ(地域)	NSP34_008	必修	1	3	後期
担当教員	研究室	電子メールID	オフィスアワー		
渡邊 美樹 他	303	m-watanabe	水曜日 12:10~13:00		
授業の目的・概要	市町村保健センターや地域包括支援センターにおいて、在宅療養者と家族に対して地域の中でどのような看護が提供されているのかを、保健師の活動や地域ケアシステム・連携等の実際を通して学ぶことを目的とする。実習方法は、課題学習、地区めぐり、保健事業への参加等を実施し、地区めぐりでは、地域住民の暮らしや地域の中で利用できる保健医療福祉システム・施設等を地域に出て調査する。課題学習では、個人学習やグループ学習を遠隔授業システム(Teams)を活用して行う。				
学習上の助言	行政保健師の活動を通して、地域で生活する人々の健康がどのように守られて支えられているのか、興味を持って学習してほしい。				
教科書	厚生 の 指標 増刊 国民衛生の動向 2021/2022 厚生労働統計協会				
参考書	最新 公衆衛生看護学 第3版/2019年版/編/宮崎美砂子 他/日本看護協会出版会				
学生が達成すべき行動目標			関連卒業認定・学位授与方針		
①	地域で行われる看護や対象者に興味を持ち、主体的に実習に取り組むことができる		NS(1)、(5)		
②	地域に暮らす人々の健康に影響を及ぼす環境や生活の様子など地域特性を説明できる		NS(1)、(3)		
③	保健センターや地域包括支援センターの機能と役割を説明できる		NS(2)~(4)		
④	在宅療養者や家族の生活を支えるための社会資源の活用や関係機関との連携について説明できる		NS(2)~(4)		
⑤	地域における看護活動の意義を説明できる		NS(1)~(4)		
授 業 計 画					
<p>1. 実習時期と期間 3年次後期 1週間</p> <p>2. 実習場所 富士吉田市、富士河口湖町、西桂町、都留市、大月市(予定)</p> <p>3. 実習方法 1) 課題学習 実習する市町の概要や保健事業について調べる 保健センターと地域包括支援センターの役割・機能を調べる 生活習慣病対策等、市町で行われる健康づくりの取り組みを国民衛生の動向によりまとめる 実習での体験を通した気づきや学びをグループ学習により整理する</p> <p>2) 地区めぐり 独居高齢者(Aさん)の生活をイメージしながら実際に地域を歩き、地域特性の理解と必要な支援方策を考察する</p> <p>3) 保健事業等への参加および住民との交流 地域住民の方との交流を通して、保健事業や地域における看護活動の必要性を考察する</p> <p>4) 実習での学び報告会 実習での体験や気づきを学生間で共有し地域の中で提供される看護活動について学びを深める</p> <p>5) 日々の学びを実習記録にまとめる</p>					

[専門教育科目/看護の展開/在宅看護学]

学習課題・学習時間(時間)							
<ul style="list-style-type: none"> ・課題学習では指示された課題について取り組み、学びや考えたことをわかりやすく表現しまとめる。 ・実習中、日々の学びを記録にまとめる中で、地域住民の生活の様子や地域における看護活動の意義などを考察していく。また、疑問点はなるべくその場で質問し解決するとともに、自主学習においても調べる習慣を持つ。 ・実習終了時にはテーマに沿って自分の考えをレポートにまとめる。 							
必要時間:						5時間	
達成度評価							
総合評価割合(%)		試験	レポート	成果発表	ポータル	その他	合計
		0	50	20	10	20	100
総合力指標	知識・技術力	0	10	0	0	0	10
	思考・推論・創造する力	0	20	0	5	0	25
	協調性・リーダーシップ	0	0	0	0	5	5
	発表・表現伝達する力	0	10	10	0	0	20
	コミュニケーション力	0	0	10	0	5	15
	取組みの姿勢・意欲	0	0	0	5	10	15
		問題を発見・解決する力	0	10	0	0	10
評価のポイント							
評価方法	行動目標	評価の実施方法と注意点				フィードバックの方法	
レポート	①	✓	「本日の実習記録」において、日々の実習目標を立て、教員のチェックを受ける。さらに、実習実施内容および学びをまとめ翌日提出する。実施した内容だけでなく、体験から何を学んだかを考察することが大切である。				「本日の実習記録」をもとに、学生の理解度を確認し、個別かグループで振り返りの機会を作る。
	②	✓					
	③	✓					
	④	✓	実習終了時には「実習のまとめレポート」をまとめ指定期日までに提出する。				
	⑤	✓					
成果発表	①	✓					発表会において指導者および教員から講評を行う。
	②	✓	地区めぐり実施後、地域特性や生活上の課題をグループで話し合い発表する。				
	③	✓					
	④	✓	実習最終日には、学内において学びの発表会を行う。				
	⑤	✓					
ポータル	①	✓					内容や整理状況を確認し、必要時、個別にコメントする。
	②		課題学習や日々の記録など学習した内容の資料を整理し、実習終了後に提出する。				
	③						
	④						
	⑤						
その他	①	✓					学生の自己評価をもとに、学生自身の課題が明確になるように教員と面接を行う。
	②	✓					
	③	✓	学生が到達すべき行動目標①~⑤の到達度、および、実習への姿勢について教員により総合的に評価する。				
	④	✓					
	⑤	✓					
備 考							
<p>担当教員:◎山崎 洋子、望月 宗一郎、伊丹 幸子、渡邊 美樹</p> <p>この科目は、担当教員が保健所・市町村における行政保健師活動および訪問看護活動、さらに大学病院における医療連携室での退院調整や療養生活相談等の経験を元にして、地域で生活する対象者の健康を支える看護の実際を、現場の公衆衛生看護活動に意味づけしながら指導し、人々の暮らしに寄り添った看護に必要とされる知識の習得を目指します。</p> <p>地区めぐりでは、学内での学びを現地で確認するとともに、現地でなければ学べない地域住民の生活感を肌で感じて欲しいです。学外での実習の際、公共交通機関を利用した移動となりますが、感染症予防行動を徹底するとともに、日ごろから自身の体調管理を心がけてください。</p> <p>登校の際は、大学が公表している感染対策および教員が示す授業方法を遵守してください。</p> <p>実習内では Teams を使った課題学習の時間があります。その際、通信容量が無制限の Wi-Fi 環境を推奨します。</p> <p>今後の新型コロナウイルス感染症の状況など社会情勢によって再度シラバスを変更する可能性があります。</p>							